

自由民主党蒲郡市議団
代表 大向正義

市民病院の安定経営 について

問 平成30年4月から始まった人間ドック事業の概要と実績について伺う。

答 30年度は平日週5日を健診日とし、うち水曜日は女性の医師、放射線技師による婦人科検診を行っている。受診者は1000名弱となる見込みである。

31年度は、第1・3土曜日にも健診日とする予定で、受診者は1500名と見込んでいる。

教育環境の充実について

問 教員の残業減への業務見直しについて伺う。

答 文部科学省はガイドラインで、一カ月の超過勤務時間の上限を45時間と示した。現状では難しい目標だが、これをチャンスと捉え、社会の変化に対応し



た人づくり・まちづくりのシステム構築につなげたい。

問 部活動ガイドラインについて伺う。

答 部活動の大幅な見直し等、今後を方向づける内容で、4月には各学校で公表できるよう準備する。

超高齢社会に対応した 施策の充実について

問 寿楽荘の利用者増のための送迎バス試験運行について伺う。

答 4月から毎週月曜日に三河三谷駅との間で実施する。

問 老人クラブへの加入促進施策について伺う。

答 活動内容を紹介する友愛クラブだよりを年1回全戸配布している。引き続き、新規加入促進映画鑑賞会など会員以外の参加可能な行事を広報で周知していきたい。

問 老人クラブ担当職員を増員する考えは。

答 増員は難しいが、老人クラブや社会福祉協議会と連携し、老人クラブ活動の活性化に努めていく。

地球温暖化対策について

問 ごみの資源化・減量化の取り組み、廃油回収事業について伺う。

答 ごみ処理の長期的な基本方針である「ごみ処理基本計画」を策定し、資源化・減量化を推進している。31年度はごみ処理の有料化も含めた施策の検討を進め、計画の改訂を行う。

今後は、さらなるごみの減量化を推進し、資源回収団体育成奨励金の交付を引き続き行う。

廃油回収事業では、市の廃油回収ステーションの新規設置等、資源化施策を充実させながら、市民の意識を高め、リサイクル率の向上を図っていく。

モーターボート競走事業 の市への貢献について

問 市の財政への貢献を分かる形にするため、教育・子育て支援基金や防災基金を創設してはどうか。

答 31年度は地域貢献事業として防犯灯等のLED化を行う。基金創設は今後の検討課題としていく。

市民体育館について

問 自由民主党蒲郡市議団がアンケート調査を行った結果、346件の回答があり、79.5%が新体育館建設を望む意見であったが、この結果をどのように考えるか。

答 アンケートは、総合体育館基準の約半分の学費を学校体育館基準での費用を示した上での質問であったと認識している。市としては、早急な安全性の確保を考慮



現在の市民体育館

して耐震・長寿命化の方針を決定した。

問 アンケートでは80%近くの人々が新体育館建設を希望しているが、耐震・長寿命化を行うという結論に至っている。市民の声が届いていないと考えられるが、市の施策に対して市民の声を反映させることへの考えは。

答 市政運営では市民の声は最も重要である。様々な計画作りや施策の方向性の検討の際には市民意識調査やアンケート等を行い、結果を踏まえ事案ごとの状況に応じた対応を行っている。今後でもできる限り市民の声に寄り添い、市政運営に反映していきたい。